

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション喜多町
所在地	(〒 940 - 2121) 新潟県長岡市喜多町 2900 番地		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
住み慣れた地域で、自分らしく暮らせるよう支援していく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2018 年 8 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	(12) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2019 年 2 月 13 日	出席人数 (合計)	(18) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (2人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2人) <input type="checkbox"/> 利用者 (0人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (2人) <input type="checkbox"/> その他 (9人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の意欲、目標を引き出せるようなケア（自立支援）を行う。 ・実践に活かせる様な研修計画、外部研修の参加を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月事業所内での研修で、ロールプレイを含めた、実践に繋がる研修を行った。 ・外部研修へ参加。（現在4回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内でケース検討会を行い、自立支援に繋がった。 ・同行訪問を行い、利用者、ご家族からも評価を頂いている。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・状態変化のある中で、ご本人の希望を汲み取り、計画を立て実行していく。 ・看護とのアセスメント、ヘルパーのモニタリングを有効なものにし、医療との連携をより密なものにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護との勉強会 ・積極的に担当者会議の提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護と勉強会を行い実践に繋がっている。 ・困難ケースの対応で、多職種で集まり、情報交換し、対応検討した。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを有効活用し、必要な情報を多職種と連携し相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供を行う。 ・多職種の専門性を知ることで、利用者のニーズの選択肢を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他法人とのタブレットでの情報共有が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時、退院時の情報交換の方法を検討する必要がある。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	<ul style="list-style-type: none"> ・川西地区への定期随時の広報活動。 ・地域の活動に参加し、サービス提供の発信していく。 ・地域で必要な情報や社会資源を把握し、地域の特性を理解し情報発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅へ訪問しての情報提供 ・町内祭りの参加 ・まちなねの参加 ・広報誌の作成 ・T e n y テレビ新潟の放映 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内祭りでサポートセンター喜多町も御神輿のルートに入れて頂き、町内との交流の第一歩となった。
III. 結果評価 (評価項目 33～34)	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方に利用して頂く為に、適切なアセスメントを行い、必要な援助を見極めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート1月実施。 ・アセスメントにて、プラン変更必要な方に、その都度ケアマネに提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度、計画書の変更を行い、ADL向上につながっている。 ・利用をしていく中で、要望が多くなり、希望に添えないところの理解が難しい。 	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の目標とまではいかないが、意欲を引き出せるような声掛けをし、自立支援に繋げた。 ・毎月は出来なかったが、研修にロールプレイを取り入れ、職員それぞれの介助方法を聞き、利用者と職員にとって、より良い援助を検討し、実践に活かした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部・内部研修に参加した内容を伝える機会を作り、職員同士で情報共有し、何を援助に活かせるか検討する。 ・介護医療連携推進会議を一般職員にも理解して頂き、会議での貴重な意見が反映できるようにする。 	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・状態変化には計画を立て直し、柔軟に対応したが、ご本人の希望より、ご家族の希望に沿う事が多かった。 ・看護とヘルパーとの連携は密になってきたが、病院との連携の方法に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の意思を尊重し、終末期に向けて、自分らしく暮らせるような計画を行う。 ・医療の必要性をケアマネに伝え、利用者、介護者に理解してもらい、専門性を活かしたサービス提供ができる。
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを利用している事業所とは情報共有を行いサービス提供に繋がったが、ショートステイ、デイサービス、病院との情報交換の方法を検討する必要がある。 ・多職種の理解を深める場があまり作れなかったが、利用者のニーズには答えられるよう、ケアマネさんに提案を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイ、デイサービス、病院との情報交換の方法を検討し、どこでも同じ介護が受けられる。 ・多職種の理解を深めるとともに、定期随時が多職種に知って頂く。
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川西地区への広報活動が少ししか出来なかった。 ・地域の活動にはできるだけ参加したが、サービスの情報発信とまではいかなかった。 ・地域で必要な社会資源をまだ把握出来てないが、まずは、定期随時を知って頂くように地域に向けて広報誌を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川西地区へ広報活動を行い、定期随時の理解を深めてもらう。 ・サポートセンターで協力し、地域を巻き込んだ活動を行いながら関係性を築いていく。

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・状態変化のある時は、訪問時間を延長したり、追加訪問したりし、元の状態に戻るように、対応し改善に繋がっている。 ・利用して行く中で、要望が多くなり、定期随時の趣旨と違うところを説明しても納得できない方もいられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者、ご家族に再度定期随時の理解をして頂き、定期随時の特徴を活かしたサービス提供を行う。
---------------------------------	---	---